資料3

平成 26 年 7 月 8 日
茨木市市民文化部文化振興課

第2回茨木市文化振興ビジョン策定専門部会　参考資料

1．茨木市の人口推移

(1) 人口の推移

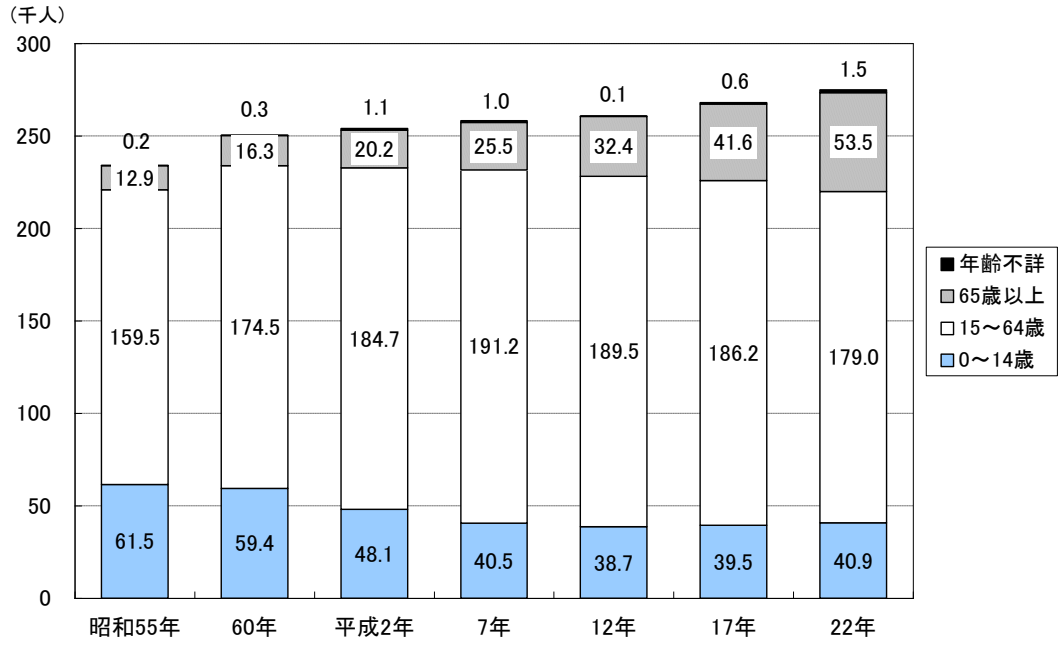
茨木市の人口は、交通利便性の高さや良質な住環境、また彩都の開発などを背景に、昭和 55 年（1980 年）以降一貫して増加を続けており、平成 22 年には 27 万人を超えている。

年齢３区分別の内訳をみると、全国的な傾向と同様、老年人口（65 歳以上）は一貫して増加傾向にあり、生産年齢人口（15～64 歳）は減少傾向にあるものの、年少人口（0～14 歳）は平成 12 年以降微増している。

また、年齢３区分別の構成比をみても同様であり、平成 22 年の高齢化率は約 20%となっている。

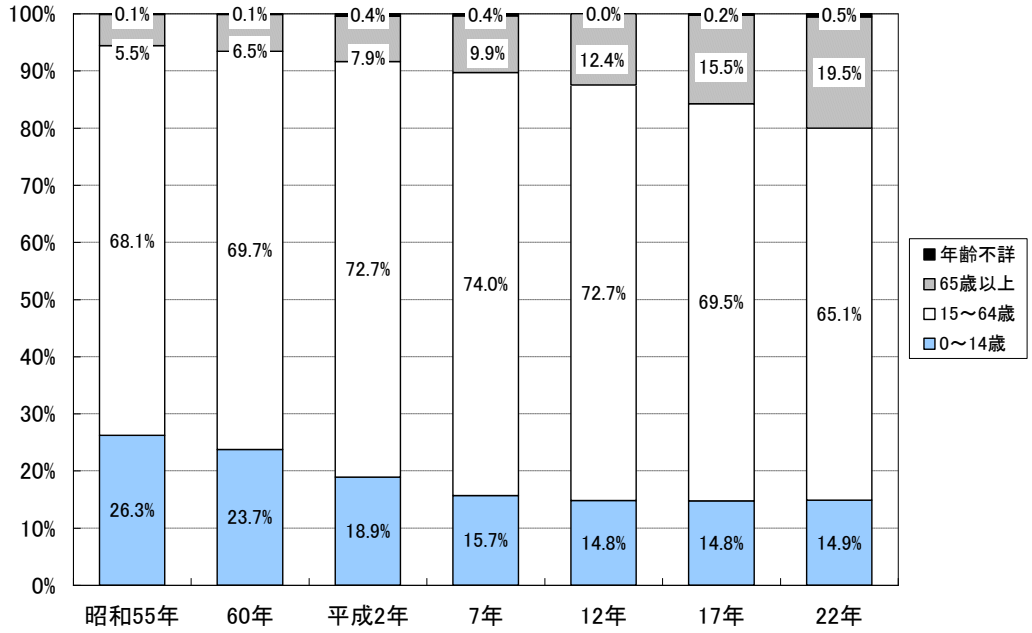
他方、人口と世帯数、世帯人員の推移をみると、人口と世帯数は増加傾向にある一方で、単独世帯の増加を背景として、世帯人員は減少している。

図表１　茨木市の総人口の推移（年齢３区分別）



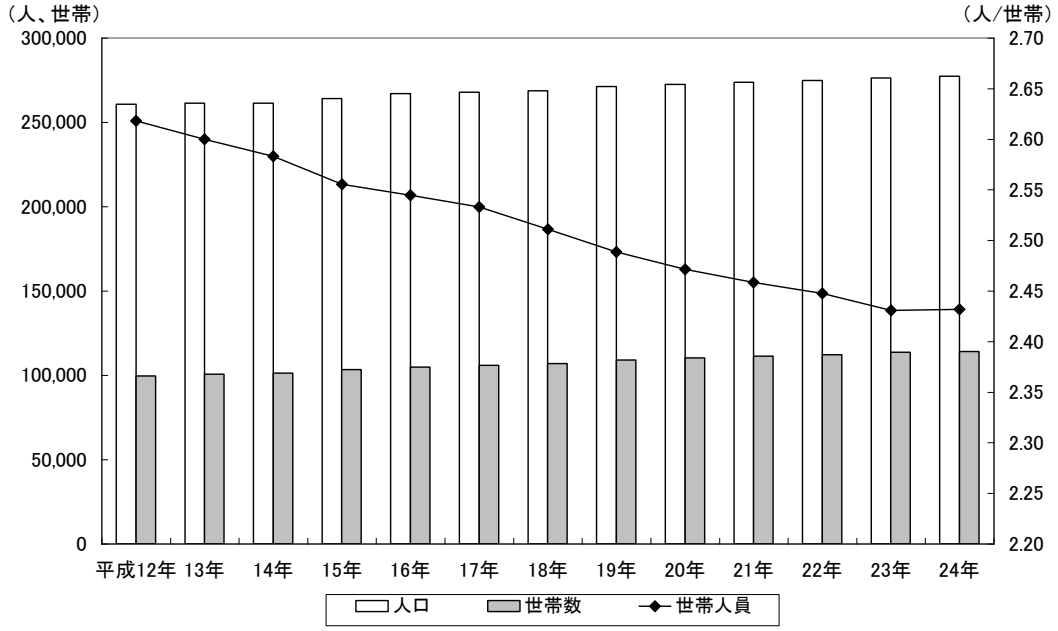
（資料）総務省「国勢調査」

図表２　茨木市人口の年齢３区分別構成比



（資料）総務省「国勢調査」

図表３　人口・世帯数・世帯人員の推移



（資料）大阪府推計人口（各年 10 月 1 日現在）

(2) 将来人口の推移(推計)

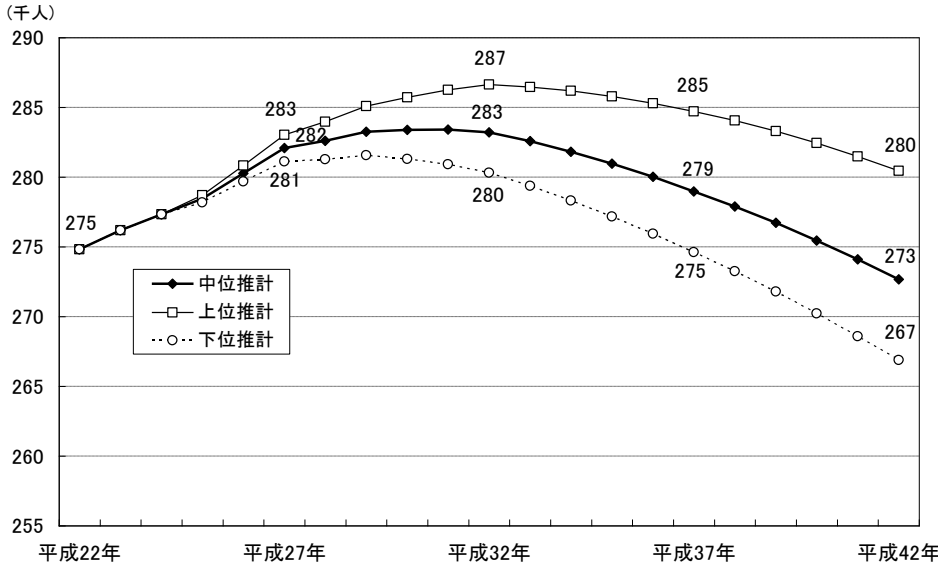
茨木市の将来人口の推計結果は、以下の通りである。

いずれのケースにおいても、しばらく増加が続くが、平成 29 年（2017 年）から平成 32 年（2020 年）にかけて人口はピークを迎え、その後減少するという結果となった。

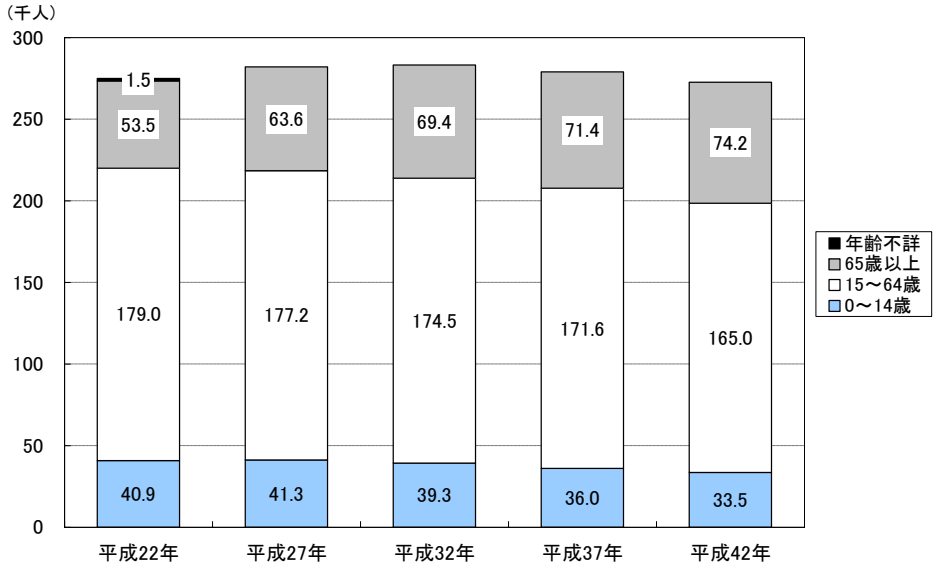
中位推計による人口のピークは、平成 31 年で約 28 万 3 千人である（なお、平成 27 年に予定されている立命館大学の開学に伴う学生等の転入についても考慮されている）。

年齢階層別構成割合の推移をみると、いずれの推計ケースにおいても、老年人口の割合が平成 22 年の 19.5%から、目標年の平成 37 年には 25%を超える高い水準になるという結果となった。また、生産年齢人口と年少人口は、ケースによって数値にやや開きはあるものの、いずれも現在より低下する結果となった。

図表４　将来人口の推移（総人口）



図表５　将来人口の推移（年齢階層別・中位推計）



（資料）茨木市「茨木市将来推計人口等調査報告書」

２. 茨木市における地域の民俗芸能

茨木市には各地域にさまざまな伝統芸能が伝わり、継承されている。こうした伝統芸能のうち主なものを例示すると次の通りである。

図表６　茨木市の地域民俗芸能（例）

名称	概要
浄瑠璃音頭	茨木市北部の見山地域、清溪地域に伝わっている。 浄瑠璃音頭とは、江戸時代に人形芝居や歌舞伎と結びついて盛行した三味線を伴奏音楽とする語り物である浄瑠璃の内容を音頭として歌うもの。 現在は８月第一日曜日に忍頂寺小学校で行われる見山地域全体盆踊り、車作・上音羽・銭原各地区の盆踊りで定期的に行われており、その他にも不定期に年間５～６回程度行われている。
茨木童子伝承	茨木市に伝わる茨木童子の伝承は次の通りである。 「茨木童子は水尾村に生まれたが、幼少期、茨木村に捨てられ、近くの床屋に拾われて育てられた。床屋の手伝いをしているうちに客の切り傷の血を舐め、その味を知ってからはわざと客に傷をつけて血を舐める習癖がついた。自分の異常さに気づいた彼は、前の小川の橋の上から水に映る自分の姿を見て、鬼の形相であると知って人間世界での生活を諦め、大江山の酒呑童子の配下になった」という。 なお、その他に尼崎市や新潟県栃尾市といった地域にも茨木童子の伝承が伝わっている。
ヒアゲ	茨木市域各地で行われている、神社の祭りで氏子が提灯や灯籠を境内に持って行って献灯する行事。茨木市域の祭礼行事としては最も数多く行われているとされる。時期や細かな方法は地域によって異なるが、全体としては夏祭り、秋祭りの中で行われることが多い。

（資料）茨木市「新修 茨木市史（第十巻）」

以上